



## お茶の水図書館見学会報告

東京弁護士会と第二東京弁護士会の合同図書館委員会では、専門図書館見学会を年1回実施して業務改善の資としている。平成18年の見学会は、10月24日、神田駿河台2丁目にある「お茶の水図書館((財)石川文化事業財団)」に館長・二弁担当副会長を含め18名が参加して行なわれた。

同館は雑誌「主婦之友」の創刊者石川武美によって昭和22年に女性専用図書館として設立されたが、現在は男性も利用可能である。女性・生活・実用分野の約6万冊の雑誌と約4万冊に加えて古典籍・古文書の約10万点に及ぶコレクションがある。平均22年のキャリアを誇る13名の司書が在勤しており、年間予算は約1,000万円(除く人件費)とのこと。明治・大正期を含む婦人雑誌の収集に定評があり、特に「主婦の友」は全号(除く別冊付録)揃っている。

見学会では、田邊由美事務局長から沿革や研修態勢などの説明を受け、各階にある蔵書を見学して部門担当の司書から説明を受けた。

1階は雑誌既刊号の電動書庫で職員外立入禁止である。昨年度は約1,000冊の既刊雑誌と約2,000冊の新刊雑誌が新たに収蔵され永久保存とのこと。スペース不足で蔵書廃棄が課題の合同図書館としては羨ましい話である。昭和30年代の女性セブンなどあり年配の会員が見入っていた。

2階には同館の出入口があり入館手続のカウンターがあり、創刊号以来の「主婦の友」及びその他新刊雑誌の閲覧室となっている。カラー印刷の表紙や広告記事に大正・昭和初期の時代の息吹を感じられる。デザイナーなど表紙目当ての来館者も多く、表紙をま

とめたファイルも用意されている。Vogue (USA, Paris), Schöner Wohnen, Rakam など欧米各国の雑誌もある。表紙で選んだ Votre Beauté には「LE SHIATSU AROMATIQUE」というのがあったが、あちらは和風がファッションなのだろうか。

3階は単行本の開架式書架である。法律書は一巻に収まる程度だったが、昭和5年刊「貞操躊躇とその裁判」が大時代な題名で目を引いた。

5階から7階は貴重書書庫で桐製の収納庫が立ち並んでいる。徳富蘇峰の「成賓堂(せいきどう)文庫」には奈良から近世の古文書や宋代以降の漢籍さらには朝鮮活字本などがあり、歴史の教科書でお馴染みの御成敗式目(約500年前の写本だが)や武家諸法度などを拝覧した。佐々木信綱の「竹柏園(ちくはくえん)本」には萬葉集関係の貴重書が収蔵されている。韓国を含む内外の研究者が調査に訪れているが、一般人も所定の手続を経て閲覧可能とのことである。

事務局のある9階では蔵書の保存技術やブックカバーテクニックのレクチャーを受けた。特殊紙メーカーに発注した中性紙や保存性のよい特殊紙テープを利用するなど永久保存への意気込みが感じられる。豊かな財団財産や図書館業務に特化した事業体系に恵まれ専門職制が確立していることに感銘を受けた。

なお、同館については下記のウェブサイトをご覧になるか、同館事務局に電話でお問い合わせ下さい。

■財団法人石川文化事業財団 お茶の水図書館

TEL.03-3294-2266

<http://www.ochato.or.jp>

(東弁・二弁合同図書館委員会副委員長 権藤 龍光(二弁))